

情けは人の為ならず

人に親切にすれば、やがて自分にもよい報いが返ってくるという意味ですが、このことを大阪大学の研究チームが保育園児の観察から実証したという新聞記事を目にしました。

親切な行動をよく取る「親切児」が、他の子に親切な行いをした際に、1メートル以内にいてこれを見た園児がその後の10分間にどのように振る舞うかを観察したところ、親切児を手伝ったり、親しく話しかけたり、他者を好ましく思う言動が増えたというものです。

親切な行動は回り巡って自分に返るというだけでなく、回っていく間に、他人に親切にできる人が増えて、社会（集団）が住みよくなることにも繋がります。昔から親や祖父母が子どもたちに伝えてきた「人に親切にしてください」という言葉を家庭や学校でも大事にしていきたいものです。

さて、この研究では「親切児」を「親切な行動をよく取る子」としていますが、そもそもこの「親切児」はなぜ親切な行動をよく取るようになったか興味湧きます。優しく育てられた子は人に優しくなる、乱暴にされたら他人にも乱暴になる、ということが大学の研究成果を借りなくとも容易に想像されます。

